

経験を積んでもっと成長したい

鎌田隊員は、相川隊員と共に「幌糠農業・農村支援センター」で、水耕栽培などの技術を学んでいます。

「今年3月に北海学園大学の法学部を卒業しました。就職活動の折に、『地域おこし協力隊』のホームページで隊員の活動を見て、自分もさまざまな経験を積んでもっと成長したいと考えるようになり、留萌市の地域おこし協力隊に応募しました」と振り返ります。

「農業の経験は、北見市で農業を営んでいる祖父母の手伝いを何度かしたくらいですが、多くのことを学んで頑張っていきたいと考えています」と意気込みを見せます。

「将来は自給自足の生活をしたと考えているので、農業を学ぶことが目標を達成するために一番近い道ではないかと今は感じています。今後は、地域の方と会う機会を増やし、交流を深めていきたいですね」と話します。

今年6月から活動しています

かまだ たくや
鎌田 拓矢です。



今年6月から活動しています

かとう みなこ
加藤 美奈子です。



留萌の知名度を全国区にしたい

加藤隊員は、市・経済港湾課で、観光振興を支援する活動などに取り組んでいます。

「十代のころ、留萌市に住んでいました。また、母が暮らしているの、結婚した後も数年に一度のペースで帰郷していました」と話します。

「地域おこし協力隊の活動を紹介しているテレビ番組を見て、関心を持つようになりました。千葉県で暮らしていたころ、留萌の知名度があまり高くないことをとても残念

に感じていました。おいしいものがたくさんある留萌が全国区になるため、皆さんの協力を得ながら、活動していきたいと考えています」意気込みを見せます。

「将来的には、ヨガインストラクターの資格などを生かし、みんなが集まれる場所づくりにも挑戦したいですね。まずは皆さんに覚えてもらいたいと考えています。マチで見かけたら、気軽に声を掛けてください」と語ります。

活気ある地域づくりを進めるためには、「行政」「地域」「地域おこし協力隊」がそれぞれの立場で連携していくことがとても大切です。また、地域おこし協力隊が活動するためには、皆さんの理解と協力が不可欠です。みんなで協力し合いながら、活気ある地域を一緒につくりましょう。

特集



こんにちは 地域おこし協力隊です

地域おこし協力隊の各隊員は、活気ある地域づくりと留萌市への定住に向け、さまざまな活動に取り組んでいます。

留 市・政策調整課 ☎ 42-1809

ただいま、3人の隊員が奮闘中！

▼市では、平成22年度から地域おこし協力隊の募集を開始しました。

地域おこし協力隊の隊員は、おおむね1年から最長3年の委嘱期間中に市からの支援を受けながら、さまざまな活動に取り組みます。

これまでに13人が委嘱されており、そのうち5人の隊員が留萌市に定住し、現在も地

域の一員として活躍しています。

現在は、28年度と29年度にそれぞれ委嘱された3人の隊員が活動しています。各隊員は、それぞれの目標や夢を抱き、定住・定着の道を模索しながら、活気ある地域づくりの一助として自身の才能や能力、特技などを生かしています。

わたしたちが地域おこし協力隊です

留萌の魅力を広く発信したい

相川隊員は、「幌糠農業・農村支援センター」で、水耕栽培などの技術を学んでいます。また、自分たちの活動や地域の魅力などの情報をインターネットを活用して発信しています。

「幌糠農業・農村支援センターの実験ハウスでは、野菜や果物などさまざまなものを栽培しています。作物が順調に生育していく様子を観察するのは、とても楽しいですね」と語ります。

「インターネットを活用した情報発信は、主にSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を使って行っています。『いいね』『見たよ』という声が増えているので、やりがいを感じています」と話します。

「今後は、地域の皆さんとの交流をさらに深めながら、農産物をはじめとした留萌の魅力を広く発信していきたいと考えています」と意気込みを見せます。

平成28年8月から活動しています

あいかわ はるき
相川 春生です。

